

「倒れることのない人生」 —マタイによる福音書講解説教 36—

詩篇 第95篇 1～3節  
マタイによる福音書 第7章 24～29節

説教 岡村 恒 牧師

「雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。」(マタイによる福音書 第7章25節)主イエスは長い説教の最後に、岩の上に家を建てるという話しをなさいました。聞いていた人は皆、恐れ驚きました。主イエスがこの日、お語りになった言葉は、聴く者の人生を変え世界全体を変えていきました。本当に幸せな者は、目に見える物が終りを迎えてもなお倒れない人だ。そして立ち続ける道、信仰の道を私は与える。更に主イエスは語り続け実行されていきます。

1,000年程キリスト教会の中でも本当の幸いとは何かわからないで過ごしていた時期があります。1517年10月31日、ドイツのビッテンベルグ教会の扉にマルチン・ルターという人が95箇条の提題を釘で打ち付けました。それは当時いろいろなものを議論するときの普通のやり方でした。マルチン・ルターは単純なことを書きました。聖書に書いてあることだけが本当のことではないか。聖書に記された主イエスの言葉だけを聞き取っていこう。

教会が変わりました。礼拝が変わりました。プロテスタント教会が生み出され、カトリック教会のミサも変わりました。それから350年余りを経て日本にプロテスタントの信仰が伝えられました。そして大阪教会は今年、創立140年を記念して祝っています。日曜毎に私たちはここに集まって神様を褒め称えて生きています。

主イエスは、日常生活に追われている私たちに、なくてはならない物は1つだと、お語りになりました。そして岩の上に家を建てたら良いと言われます。建てるべき場所に家を建てなければ、傾き、崩れ、嵐が来た時に家族を守ることができません。本物の岩の上でなければ神の裁きの時に建ち続けることなどできないと言われます。わざわざ倒れやすい場所を選んで建てる人などいません。ただ、本当の岩が何かかわからないので誤って砂の上に建ててしまうのではないのでしょうか。

聖書は私たちに、あなたの人生を支え続ける確かな岩があると語ります。どんなことがあっても、この世界の終りが来ても揺らぐことのない土台があり、そこに立って生き続けることができる。主イエスは、私は岩だ、私に従って来

なさいと呼びかけたお方です。人々は驚きました。言い換えれば、私が救いそのものだと宣言されたのです。

家の建て方を語る人は大勢いました。例えば律法学者と呼ばれる人はそうです。律法を読みながら細かく語り、人々の生活を整えさせました。しかし主イエスが来られると、彼らが語る家が虚しく崩れ去る家であることがはっきりしてしまいました。土台が確かではないからです。宗教改革では、この土台を再発見しました。家を建てる土台が大切で、それは主イエスだけだということをも再発見して人々に伝えました。

問題は、確かな土台かどうか人が人の目には判断できない点にあります。目に見えることだけを見ていると、自分がどんな土台の上にいるのか気づかずに通り過ぎます。お金や、地位や、名誉の上に家を築いても、地震が起これば簡単に液状化して危ないかもしれません。目に見えないところを調べる方法が、今日ではいろいろあります。しかし、私たちの人生では、調べる必要のない地図があります。聖書であります。そして聖書の言葉を信じて生き始めると、その人はいつでも硬い地盤の上にいることに安心し、喜んで生きるようになります。聖書によれば、目に見えないところを信じさせることができるのは神だけだと言われます。

主イエスを信じて、主イエスの救いの道を歩んでご覧なさい。あなたの人生は硬い岩の上に家を建てた人のように終末が来ても倒れることはない、聖書は宣言します。2,000年の間、宗教改革から500年近く、世界中の多くの人々がこの神の約束を信じて歩んできました。

私の身近で、これは失敗だった、そう絶望して死んでいった人に会ったことはありません。むしろ、自分が1日1日、死に向かって歩んでいる病床で、喜び、神を褒め称えて歩む大勢の信仰者に会ってきました。ですから私は、確信を持って皆様にも告げることができます。主イエスを信じて生きる人生は間違いありません。たとえ何があっても、あなたの人生は倒れない。確実な約束です。聖書の言葉を信じ、イエス・キリストを信じて生きて間違いのない。あなたもその岩の上に立って歩んで良いのです。

(記 説教要約奉仕者)